

山菜山行 只見蒲生川支流

杉崎 圭洋

■山行年月日:平成30年6月2日
～3日

■メンバー:佐藤敏二 大竹幹衛
佐藤利伊 保科勝人
斎藤憲一 窪田道男
大竹尚子 杉崎圭洋

■コースタイム:

2日 蒲生川林道終点 11:00～テント場 12:00

3日 テント場 7:10～井戸の沢二股分岐 7:40—8:00～900m地点 13:00～テント場 17:00～林道終点 18:00

今年は雪解けが早くゴールデンウィークが終わるとススキー終了となってしまった。鳥海山はまだ大丈夫だと思うが遠くて重い腰が動かない。山岳会も沢登りにシフトチェンジとなりオープニングを飾る山菜山行が計画されている。数ヶ月前にその魅力的な企画名に誘われて早くから立候補していた。

6月2日(土) わらび園沿いの林道を走り車止めまで入る。駐車スペースには釣りや山菜採りと思われる車で賑わっていたが、何とか路肩に止められた。その中の一台に小沼さんの車もあり一足早く入山している。準備を済ませて行動開始。蒲生川を遡り堰提を越えた、左側の山道へ入るとこしあぶらが少し採れた。最後に崩れた斜面を下ると広々とした沢に出た。テントを設営して焚火を始める。準備が終わると釣りと山菜採りに

各人が散っていった。私は火の番で残ることになり少し残念。仕様がなかったので、もってきた酒で焚火しながら一人宴会となった。酒も程よくまわってきたところに、窪田さんが遅れて到着した。4時集合で釣りに行ったことを連絡し、窪田さんも釣りに向かった。集合時間となりイワナ・山菜を沢山採ってメンバーが戻って来た。イワナはほ一さんが手早くさばき串に刺して焚火の前に山菜はお浸しやてんぷらでどんどん出来上がり宴会が始まった。今回は米と調味料・行動食以外は現地調達ルールだったが、たっぷり食べて大満足だった。



イワナの焼きがらし

翌日、憲一さんは持場沢へ、保科さんは釣りをする為、一足早く出発した。残りのメンバーも一時間ほど遅れて出発。井戸の沢を遡ると沢が分岐する所にテントがあり、テントからはまだ眠そうな小沼さんが顔を出した。小沼さんは昨日、左俣から936mのピークを往復してきたそうで、ゼンマイ小屋の跡と思われる見通しの良い台地でキャンプしてい

た。

ここでパーティーは二手に分かれ敏二さん・ほ一さん・窪田さんは左俣。大竹会長・尚子さん・保科さん・杉崎は右俣へ行くことになった。右俣を登って行くと、不安定な雪渓が次々と現れる雪を踏み抜いたりしながらも登って行くと、8mくらいの釜を持った滝が現れた。ロープを出して大竹会長がトップで登る。続いて杉崎が行くが最初の取りつきでうまく足場を確保出来ず胸までドボンと浸かる皆さんにアドバイスをしてもらいロープの助けを借りて何とか登った。それから2回程ロープを使う滝を越える。ツルツルの登れない滝は左から巻くことになったが、手掛かりが少なくコース取りが難しい。前に行く尚子さんからゼンマイをつかんでと声を掛けてもらう。なるほ

どその手があるのかと、軟弱な斜面のトラバースを試みるが、つかみ方が悪いのかゼンマイの束が折れそうな感じがして先に進めない。ちょっとコースを変えたりして他の立派なゼンマイでもやって見たが足元も安定せず、ここは諦めもう少し上から巻き直して何とか沢に戻った。さらに登り沢も細くなり小金井山の稜線が近くなってきた。しかし、時間が午後1時となりここでタイムアップとなった。そこから懸垂下降を繰り返してどんどん下る。足場の悪い雪渓も通過して少し余裕が出来たので、お土産の山菜を採りながらテント場に戻り、撤収して帰路についた。

